

人の心に届く 音楽家になりたい。



チェリスト

佐藤 桂菜

>>PROFILE 大府市出身。石ヶ瀬小、星城中に進学後、2019年6月まで米国ボストン郊外の芸術高校で音楽を学ぶ。同年9月からニューヨークにある音楽大学「ジュリアード音楽院」に通う。チェリストとして、数々の音楽家と共演。

期 待の若きチェリストの佐藤桂菜さん。留学先の米国での生活や音楽を始めたきっかけ、偉大な先輩への思いなどについて語ります。

世界最高峰の音楽大学へ

昨年9月から米国最高峰といわれる音楽大学「ジュリアード音楽院」で学んでいる佐藤さん。世界的な音楽家を多数輩出してきたレベルの高い環境の中で日々音楽と向き合っています。「充

実しているけど忙しくて、3カ月があつという間に過ぎちゃいました。ダンスや俳優を目指す人と共演することもあり、とても刺激的です」と学校生活を振り返ります。

ジュリアード音楽院は、市出身の世界的なバイオリニストの竹澤恭子さんもかつて在籍した学校で、世界中から優秀な学生が集まります。佐藤さんは進路を決める際、共演したこともある竹澤さんにも相談し、同学院を受験。難関といわれる試験を見事に合格しました。

自分の長所を磨いていく

順風満帆に見える佐藤さんですが、入学後は周りのレベルの高さに焦りを感じます。「周りは才能を持った人ばかり。なんで私はここに受かったのだろう。みんなに全然追い付いていけないあ、と自己嫌悪に陥っていました」と語ります。

そんな時、指導を仰ぐ先生から、「百分と他人を比べてはダメ。桂菜にもいいところがあるよ。そこを磨いてみたら」とアドバイスを受けます。自分自身を客観的に見つめ直し、「今では自分の長所を磨いていこうと思えるようになりました」と一ツ壁を乗り越えます。

チェロとともに歩む人生

佐藤さんとチェロとの出会いは0歳の時。母親のあけみさんは「0歳でチェロの音色に興味を持ち、スズキ・メソードの教室に通わせました。最初は鉛筆を弓に見立てて、『きらきら星』の音楽に合わせてリズムを取る練習をしていました。実際にチェロを使って練習を始めたのは3歳からです」と当時の様子を話します。スズキ・メソードの教育法は、与えられた曲をマスターしたら次の曲に挑戦できるシステム。佐藤さんは「自分よりも新しい曲をやっている子に負けたくない。早く次の曲が欲しい」と思っていたそうで、負けず嫌いな一面も垣間見えます。

中学1年生の時には、初めてのオーディションを経験し「NHK名古屋青少年交響楽団」に入団。中学3年生の時にはNHKナゴヤニューイヤースァーティに出演する機会に恵まれ、ピアノの清塚信也さんやバイオリニストの古澤巖さんなど、一流の音楽家と共演します。このコンサートは佐藤さんにとって音楽人生のターニングポイントとなり、「本格的にチェロで音楽の道に進みたい」と家族に打ち明け、音楽留学を決めます。

0歳からチェロを愛し、チェロと共に歩んできた佐藤さんは、チェロの魅力の深い音が好き。チェロはいろ



■第25回日本クラシックコンクール全国大会 第1位受賞者演奏会
■愛三文化会館で行われた2007クリスマスコンサート(7歳の頃)

偉大な先輩を追いつける

令和3年、市制50周年「PLUSS1」記念事業として行われるコンサートで、佐藤さんは竹澤さんと再び同じ舞台上立つ予定です。意気込みを聞くと「竹澤さんに自分の成長を感じてもらいたい。後輩として恥ずかしくない演奏をしたいです」と熱く語ります。

「将来は竹澤さんのように大きな影響力があり、人の心に届く音楽家になりたい」。常に竹澤さんの背中を追い続けている佐藤さんの夢の旅はまだ途中です。



▲2016年3月1日号中面

広報おわぶ平成28年3月1日号では、当時高校生だった佐藤さんに、ニューイヤースァーティでの演奏や将来の夢などについて語っていただきました。